

# 10 和野橋前だより



## 四季の移ろい

暑かった夏のお盆が終わると、大槌まつりと賑やかに過ごし、朝夕の冷え込みと同時に周囲に目をやれば、田んぼは黄一色、すすめも沃山一帯に「パー」と飛び散り、赤とんぼも稲穂の先にとまり、和野の秋も、4年目を迎えます。

田地内の花壇やプランターにも、今を盛りに、黄花双モス、ベコニアなど、きれいに咲いて、心を和ませてくれます。

## 町の復興

なくなった町並みが恋しくて歩いてみます。どこ迄歩いても誰にも会うこともなく、山の上から見下ろしても大きな仮設道路一本、ダンパーだけが何気もせわしく動いています。

それでもスーパーマーケットに行けば、地元産の山の菜、海の幸の旬の食べ物が並び、海藻魚、ホヤ、あわびにウニ、これから秋の南部鼻まがり新巻鮭と、私達の胃袋を満たしてくれます。

おまつりを見に帰郷した友が「やっぱり大槌の風に吹かれていたい」と「ポーン」と言った一言が今でも心に響きます。

8/29、西根中學生による草取り支援

